

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 福島市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域		第 1 学年	地理的分野
(2) 単元名または活動名 「小単元名「比較や関連の視点から調べよう・・・世界と日本を結ぶ東京」			
(3) 対象生徒の実態 (1 人)			
A	第 1 学年 国籍 (中華人民共和国) 母語 (中国語 [北京語]) 在籍年数 (9 か月)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の力 生活日本語については、日常の学校や家庭生活の場において、かろうじて会話が成立する程度である。日本語の読み書きについては、小学校低学年のレベルと思われ、自分の考えを日本語で書いたり、教科書の説明文や問題文の意味を読みとったりすることは、未だ難しい段階だと思われる。日本語の取り出し授業の中で、キーボードを使った日本語入力の学習を行ってきたため、日本語の読みがわかれば、インターネットで用語の検索をすることがある程度可能である。 ・ 在籍学級での学習参加の様子 中国の自然・人文地理や歴史を中心とした学習を受けてきており、中国の首都や主要都市の名前・規模・位置について理解していることや、今年、北京でオリンピックや国際博覧会が開催されるという時事的な情報も、中国における生活体験から身につけていることがレディネステストの結果から分かった。世界の国々に関する知識は、主要国名とそのおおまかな位置を知る程度である。日本についても、自らが暮らす福島や首都東京についての概要を理解する程度であり、各地方や都道府県の特徴に関する知識はほとんどもっていないものと思われる。 ・ 学習環境 等 学級での学習は安心して意欲的に取り組んでいる。 グラフや表の読み取り・作成などの能力は、数学の学習を通して、ある程度身につけているものと思われる。 		
(4) 目標			
◇ 【教科指導の目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが暮らす福島や世界の主要都市との比較を通して、首都東京の特色に関心を持ち政治・経済の中心地としての東京の機能について注目し、理解することができる。 			
◆ 【日本語指導の目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢機能が集中する東京の特色を、知っている言葉や中国語に置き換えて説明できる。 ・ 知っている国の名前を書き出すことができる。 			

2 学習活動

指導者（教科・学級担任），指導補助者（国際交流協会サポーター）																														
全体の時間数（1時間）																														
学習活動の状況，指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等																											
<p>1 福島と東京の形や人口・面積の比較をする。</p> <table border="1" data-bbox="247 571 670 840"> <thead> <tr> <th></th> <th>福島県</th> <th>東京都</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人口</td> <td>210万人 ⑱</td> <td>1,200万人 ①</td> </tr> <tr> <td>面積</td> <td>13,783km² ③</td> <td>2,187km² 。</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 オリンピック開催国の首都や最大の都市と東京を比較し，首都の定義を知る。</p> <table border="1" data-bbox="236 1003 689 1205"> <thead> <tr> <th></th> <th>2000年</th> <th>2008年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催地</td> <td>シドニー</td> <td>北京〔ベキン〕</td> </tr> <tr> <td>開催国</td> <td>オーストラリア</td> <td>中華人民共和国</td> </tr> <tr> <td>開催国の首都</td> <td>キャンベラ 32万人</td> <td>北京 1151万人</td> </tr> <tr> <td>開催国最大の都市</td> <td>シドニー 415万人</td> <td>上海 1435万人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本の首都である東京の特色について考えよう</p> </div> <p>3 中枢機能が集中する東京の特色について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央政府〔国会議事堂〕の存在 ・国の政治・経済・文化の中心 <p>4 東京にある大企業の割合をまとめたグラフを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の全国に占める人口割合の計算例 ・帯グラフの作成 <p>5 新聞などを使いながら，グループごとに中央官庁や大使館名，大企業名を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務省，文部科学省… ・アメリカ大使館，中国大使館… ・トヨタ，パナソニック… <p>6 次時の予告を聞く。</p>		福島県	東京都	形			人口	210万人 ⑱	1,200万人 ①	面積	13,783km ² ③	2,187km ² 。		2000年	2008年	開催地	シドニー	北京〔ベキン〕	開催国	オーストラリア	中華人民共和国	開催国の首都	キャンベラ 32万人	北京 1151万人	開催国最大の都市	シドニー 415万人	上海 1435万人	<p>在籍学級</p>	<p>○ 地図帳や統計資料を使った調べ方を示し，練習させる。</p> <p style="text-align: center;">〔自律支援〕</p> <p>○ 取り上げた都道府県を掛け地図で示し，形・位置関係をつかませる。</p> <p style="text-align: center;">〔理解支援〕</p>  <p>○ 中枢機能が集中する東京の特色を，知っている言葉や中国語に置き換えて説明する。</p> <p style="text-align: center;">〔理解支援〕</p> <p>○ %の計算方法やグラフ作成の仕方を計算やグラフの作成例を明示して，支援する。</p> <p style="text-align: center;">〔理解支援〕</p> <p>○ 活動内容を大使館名に絞り，キーワードとして，知っている国の名前を書き出させる。</p> <p style="text-align: center;">〔表現支援〕</p>	<p>有効だった指導等</p> <p>◇教科指導について</p> <p>◆日本語指導</p> <p>◇資料の読み取り方を知る機会とするために数字や表を多用した。</p> <p>◇言語以外の視覚的に訴える資料を豊富に活用したことが，理解を助けることになったと考えられる。</p> <p>◇首都東京の特色をまとめることで，首都の機能について理解を深めたと考えられる。</p> <p>◆自信を持って発表することができる母国のことなどの内容のものを事前に個別指導し，発表させることにより，適切な日本語で発表する機会とした。</p>
	福島県	東京都																												
形																														
人口	210万人 ⑱	1,200万人 ①																												
面積	13,783km ² ③	2,187km ² 。																												
	2000年	2008年																												
開催地	シドニー	北京〔ベキン〕																												
開催国	オーストラリア	中華人民共和国																												
開催国の首都	キャンベラ 32万人	北京 1151万人																												
開催国最大の都市	シドニー 415万人	上海 1435万人																												

3 成果

① 対象生徒に対する成果

修学旅行の訪問先である東京についての関心を高め、日本の政治・経済の中心としての東京の果たす特殊な役割や機能について理解させることができた。また、レディネステストの結果をもとに、中国の主要都市に関する情報を発表させたり、百分率の計算式・結果を模範解答として発表させたりしたことで、JSL 対象生徒本人に、達成感を味わわせることもできたと考えられる。日本語と中国語における国名表記の違いについても気づかせることができ、次時の学習活動に対する準備や動機付けの面でも、十分な成果をあげた。日本語指導に関しては、サポーターの支援が効果的であり、授業の進め方も含めて通訳していただいたことで、対象生徒の安心感を高めることができた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）

JSL 生徒に対する支援活動を取り入れるため、都道府県に関する既習事項（「日本のすがた」）の復習を行った。また、JSL 対象生徒から、生活体験をもとにした母国（中国）の情報を聞くことで、中国に対するイメージを膨らませたり、関心を高めたりする上で役立ったと考えられる。

4 課題

○ 課題の解決方法を支援した例題から、独力で計算式や解答を導くことが困難な状態であった。人口・企業、%などの言葉の意味や単位の表記は共通でも、問題文などで使用される教科特有の言い回しや図表の表し方についての説明や訓練を継続する必要がある。